

週刊

経営財務

No.3000
2011年1月24日
毎週月曜日発行
購読料
1ヵ年:34,650円(消費税込)

発行所 (株)税務研究会 ☎(03)3294-4741 〒101-0065 東京都千代田区西神田1-1-3(税研ビル) <http://www.zeiken.co.jp>

実務研修センター(03)3264-6107 ●北海道支局(011)221-8348 ●東北支局(022)222-3858 ●関信支局(048)647-5544 ●中国支局(082)227-2125
税研情報センター(03)3294-4857 ●神奈川支局(045)263-2822 ●中部支局(052)261-0381 ●関西総局(06)6943-2251 ●九州支局(092)721-0644

◆◆◆ ニュース&トピックス weekly topics ◆◆◆

- ASBJ 収益認識の論点整理を公表……………2
- JICPA 職業倫理に関する解釈指針を公表……………4
- JICPA 関連当事者(中間報告)を公表……………5
- JICPA 「倫理委員会報告第3号」を一部改正……………5
- JICPA 税効果会計等の実務指針を改正……………6
- 金融庁 公認会計士法改正案を今通常国会提出へ……………7
- 東証 成長の鈍化したマザーズ上場企業を“ふるい”に……………8
- 会計士試験 第I回短答式に1,708人が合格……………49
- ASBJ/FASレポート 第216回……………9
- //海外会計トピックス 公認会計士 飯田 信夫……………10

創刊3000号スペシャル

- 記念対談「わが国会計制度のグローバル化:回顧と展望」……………12
三國谷 勝範 金融庁長官 VS 西川 郁生 ASBJ委員長
- 記念座談会 IFRS時代を考える 第1回 原則主義……………23
明治大学大学院教授 佐藤 信彦
あらた監査法人代表社員 関根 愛子
IFRS解釈指針委員会委員 鷲地 隆継
企業会計基準委員会主席研究員 小賀坂 敦
- 記念寄稿 会計・監査社会をめぐる課題と展望
—これまでの20年,そしてこれからの20年—……………41
青山学院大学大学院教授 八田 進二
- 臨時掲載 会計監査12か月……………50
- 新連載! ドキュメント監査役監査12か月 第1回……………56

- IFRSをめぐる動向 第21回「連結会計」……………61
あらた監査法人 井上 雅子
- 楽しく身につく「ワールド英語」 Lesson 13……………64
早稲田大学大学院教授 ダニエル・ドーラン
青山学院大学大学院教授 橋本 尚
- 財務報告トリプルマスター ⑭……………66
大阪経済大学教授 小谷 融
- 創刊3000号を迎えて……………68
税務研究会代表 藤原 紘一

◆◆◆ ミニファイル ◆◆◆

- IFRS導入とシステム対応/開示すべき重要な不備……………69

Angle
アングル

●本誌が創刊3000号を迎えました
お嬢様で、本号の発行により創刊3000号を迎えることが出来ました。これも偏に読者の皆様の温かいご支援の賜物と感謝いたしております。誠にありがとうございます。今後は創刊4000号を目指し、さらに進化・充実した誌面作りに努める決意です。引き続き、ご支援とご愛読をお願い申し上げます。

●ASBJ 収益認識に関する論点整理を公表
企業会計基準委員会(ASBJ)は1月20日、「顧客との契約から生じる収益に関する論点の整理」を公表した。3月28日まで意見募集する。論点整理は、IASB(国際会計基準審議会)とFASB(米国財務会計基準審議会)が昨年6月に公表した公開草案「顧客との契約から生じる収益」を基に、今後策定される日本基準の方向性を示したものの。契約に含まれる財またはサービスを履行義務として識別、企業が履行義務を充足したとき、すなわち、顧客に個々の財またはサービスを移転し、顧客が当該財またはサービスの支配を獲得した時に収益を認識する考えが採られている。ASBJでは本年9月までに基準案をまとめる(2・9頁)。

●成長の鈍化したマザーズ上場企業を“ふるい”に
東京証券取引所が、「マザーズの信頼性向上及び活性化に向けた上場制度の整備」策を明らかにした。ポイントは、(1)上場申請会社の監査は、日本公認会計士協会に登録している「上場会社監査事務所」に限定、(2)上場後10年を経過した上場会社については、1・2部(本則)市場と同水準の上場廃止基準を適用、(3)上場申請者に関する情報の入手先を多様化。このうち(2)は、成長の鈍化したマザーズ企業を“ふるい”にかけるのが狙い。現在の時価総額であれば、「おおよそ1割の企業が上場廃止になる」(東証)。施行は、本年3月を目途としている(8頁)。